

2023年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

2022年11月7日

株式会社アルプス物流

11月7日（月）に決算説明会をオンライン形式にて実施いたしました。質問と当社説明は下記の通りです。

（事業環境について）

Q：海上輸送がまだ混乱の状況にあるとのことだが、今後の見通しは？北米の方ではかなり解消されているようだが、まだ海上運賃は高止まりしているか？

A：下期に入り、北米（ロサンゼルス、ロングビーチ）のコンテナ船の滞留が無くなってきた。北米に溜まっていたコンテナも世界中に回り始めた。インフレによる需要減もあり、海上輸送は徐々に需給バランスが緩和、路線ごとに違いはあるが運賃も少しずつ下がってきている。航空貨物は10～11月はまだスペースがひっ迫しており、運賃も下がってはいない。

Q：他社では航空輸送は良くなっているということだが、当社の認識では足元においてまだスペースが不足しているのか？

A：路線ごとの違いはあるが、海上に比べひっ迫していると感じている。現在ピークシーズンでもあり、以前ほどではないがまだ解消はされていない。今後は旅客便の増加に伴い、貨物スペースも全体では徐々に増えるので、少しずつ需給バランスが緩むと見ている。

Q：半導体に関連する物量減の状況は？

A：顧客によれば以前よりは改善しているが、不足している部品は依然不足している。入ってくればすぐ出荷する部品がある一方、倉庫で滞留している部品もあり、不足している部品と滞留している部品に2極分化しているのが、貨物を扱っている立場からの実感。

（2023年3月期第2四半期及び通期の業績について）

Q：上期は電子部品物流で円安効果もあり業績が良かったとのことだが、輸出入が円安でプラスに振れたということか？

A：各国通貨が円安となったため、海外現法の業績を邦貨に換算する際に売上、利益にプラス効果が出た。輸出入だけでなく、倉庫、運送の事業も海外各地で増加、それらを含め更に円安でプラスとなった。

Q：上期は輸出入の好調は理解したが、国内の電子部品物流は自動車の減産で低調か？

A：国内は自動車メーカーの生産停止もあり、荷動きが停滞。倉庫には多くの物をお預かりする一方で、荷動きが停滞して運送事業が大きく影響を受けた。

Q：従来の計画に対して上期は売上14億円、営業利益9億円弱の上振れ、一方、下期は売上46億円と大きく上回が営業利益の上積みは2.5億円にとどまっている。これは海上貨物が増えて航空貨物が減少するということか？

A：下期は期初計画比で、売上増に対応して利益が伸びない理由はいくつかある。ひとつは緊急航空貨物が減少（ボートに乗らないからエアに乗せるということがなくなる）すること。海上貨物は競争が厳しくなることから、スポット単価などが急激に下がると見込んでいる。航空貨物は、10～11月はまだスペースがひっ迫しているが、第4四半期は単価が下がると見ている。

また、利幅の薄い商品販売の売上が増加すること。車載関係の顧客の物流が回復してこの売上が増えるが、利幅が薄いので、売上増に対して利益の伸びは少ない。

Q：従来ビジネスは伸び悩んでも、新規ビジネスが伸びているのは航空貨物に関連してか？

A：コロナによるサプライチェーンの混乱で、国際輸送で困ったという顧客が多く、航空貨物の受託を機に、それ以外の物流を受託するケースが増えた。加えて、サプライチェーンの見直しのご相談を受けることが多くあった。

Q：増収効果による利益増について、拡販と輸出入に分けて説明することは可能か？

A：大まかにしか言えないが、売上高ベースで、上期は拡販・輸出入合計106億円のうち、輸出入（航空）は16億円、残りが拡販というイメージ。通期では輸出入の増収は30億円程度とイメージしていただきたい。

（事業戦略について）

Q：新倉庫の建設や拡充の一方で、事業環境は厳しい。拡販活動の進捗に不安はないのか？

A：倉庫については自社建設と借庫があるが、今後も増やしていく考え。コロナで制約があったが、この2年で新規顧客を大きく増やすことができた。航空、海上貨物の取り扱いをきっかけに、倉庫関係のビジネスに拡がったものなどがある。また、コロナでサプライチェーンの混乱もあり、自社で行っていた物流業務を外注する顧客もある。これら2つのことから、計画している倉庫については十分に貨物が確保できていると見ている。

Q：流通サービスとの協業では具体的にどのような協業を考えているか？倉庫の共有はあるか？

A：トラックや倉庫の共同利用は既に行っている。協業については、両社で扱っている貨物の特性が異なるため、物流技術が異なる。双方が持つ技術の組み合わせで協業することを想定。加えて、新しい市場、顧客への参入を進めていく。協業の成果はこれからだが、活動は既に進めている。

Q： コロナが始まって以来、サプライチェーンの変化があった。生産の国内回帰や在庫増加などの状況は？今後この動きが加速すればビジネスチャンスになるか？

A： 部品が欠品して生産に影響が出たため、安全在庫の積み増しをされる顧客が多い。これに伴い倉庫の在庫量が増えている。国際輸送に大きなコストがかかったので、サプライチェーンの整流化に向けた動きを始めている印象。物流導線の変化は当社にとってのビジネスチャンスととらえ、顧客への提案を増やし、ビジネスにつなげていきたいと考えている。一方、生産の国内回帰については、あまり大きな変化はなかったと思う。

以上